

県立中央病院臨床腫瘍科部長



寺嶋 吉保

まず、Ⅲ期胃がんの術後5年生存率(5年後に生きている確率)は40%前後です。術後に再発予防の目的で行う抗がん剤治療(術後補助化学療法)は、5年生存率が約10%改善すること



答え

再発した胃がんの抗がん剤治療についての相談ですね。多くのがん患者が同じ問題に直面

質問

1年半前に進行胃がん(Ⅲ期)で手術を受け、再発予防の抗がん剤を内服していましたが、その1年後に再発と診断されました。点滴の抗がん剤に替えて治療を継続し、一時期は効きましたが、最近のCT検査で

新しい再発病変が見つかりました。今の抗がん剤は副作用もつらかったのに、もう効かなくなったようです。担当医からは、新たに別の抗がん剤治療を勧められましたが、効果も副作用の出方も保証はできないと説明され、迷っています。

を期待して投薬します。あなたの場合、それでも再発してしまい、さらに、再発の抗がん剤が半年間効いていたものの、新たな再発病変が出現。再発に対する2番目の抗がん剤を勧められているようです。つまり、担当医は、あなたが次の抗がん剤に耐えうる体力があると判断しています。

量を加減してくれるでしょう。しかし、抗がん剤の点滴をし

ないという選択も間違いだとは言えません。がんは徐々に進行しますが、抗がん剤治療をしなくても、しばらくは今の体調を維持できることが多いのです。戦うべき時と共存を考へるべき時がありますので、抗がん剤治療をした場合と、しない場合の得失を整理してみました。

《表》

患者から「先生が私の立場ならどうしますか?」と尋ねられることがあります。

もし、ぜひやりたいことがあれば、先にこれを片付けます。治療を始めると副作用のためにできなくなる可能性があるためです。

それから、比較的体力があり、今までの治療の経験から副作用に耐えられそうだと判断できるなら、次の抗がん剤に挑戦して、副作用と効果をみます。その副作用が、自分にとって数カ月の延命の可能性と釣り合う程度であれば、1~2カ月間治療を続け、血液検査やCT検査で効果があるか

質問募集 がんに関する悩み「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-8072 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センターへ電話088(930)9438でも平日午前8時半~午後5時に受け付けています。

再発胃がんの抗がん剤治療

体力や副作用見極めを

担当医は、今までのあなたの体調や、がんの状態を知っていますので、比較的副作用が軽いと予想される抗がん剤を選び、副作用の出方をみながら、投与

抗がん剤治療の選択肢

Table with 2 columns: 治療をして病気と闘う生き方, 治療をせず病気と共存する生き方. Rows: 利点, 欠点.

CT検査で効果があるか

担当医と十分相談し、納得して選択してください。セカンドオピニオンも利用できます。



☆☆ 残したいふるさとの自然 ☆☆

